

【男性機能障害治療】最前線ルポ

男が知りたい オトコのカラダ

「複製・二次使用禁止」

環境ホルモン、荒れた食生活、ストレス、そして、ますます強くなるオンナ…。いくつもの難敵に囲まれて、オトコたちのSEXは「勃たないムスコ」「減り続ける子種」と、まさに討ち死に寸前、瀕死の状態に喘いでいる。そして21世紀。はたして我らの下半身に、漲る力は残されているのか。最先端医療の現場を、カメラは覗いた。

撮影◎伊藤隼也
取材・文◎仲本 剛

※写真のモニター画面が、
CGIにより合成したものである。



「バイアグラの有効率は7~9割。失敗を繰り返すことがEDには何より毒」(永尾医師)

陰圧式勃起補助具(写真上)と、手術で陰莖に埋め込んで勃たせるプロステーシス(下)



「男性機能障害治療」最前線ルポ

男が知りたい オトコの カラダ

オトコの性の弱体化は、いったい、どこまで進行しているのか

20世紀も終わりを迎えようとしている現在、女性たちの「性」の解放が着々と進むなか、反比例するように男性の「性」の弱体化が叫ばれている。いったいオトコはどこまで弱くなってしまうのか？
「10年ほど前から不妊患者の比較対象として、健康者の精液提供を受けていますが、その健康者の精液の質が、どんどん低下してきた。これはおかしい、と96年からデータを採り始めたんです」

結果、「精子減少」という衝撃的なレポートを発表した帝京大学医学部の押尾茂氏は、さらにこう警鐘を鳴らす。

「ストレスや環境ホルモンなどさまざまな原因が推察されているのが実情。不妊治療で来院した患者には、足も組まないように、と注意するほど。ところが、これから子供をつくるであろう若い世代ほど、無自覚に乱れた食生活を送っている。あくまで個々の人生観の問題ですが、大丈夫かなと、心配にはなりますね」

昨年のバイアグラ発売で改めて注目されたインポテンス。昨今は「不能」という配慮に欠けた単語を嫌って「ED」勃起不全という疾患名が広く使われている。「多いのは心因性のED。原因は、やはり現代社会が多く抱えるストレスでしょ



二次使用禁止

勃たないアナタへ、先端医療の救いの手

東邦大学大森病院の「AVSS」治療室。患者が一人で入室しポルノビデオを観賞。局部に検査機器を装着し、陰茎の反応や硬さなどを、医師が別室で診察する。加えて、勃起を誘導する薬品を陰茎に注射し血管障害の有無を検査するほか、海綿体内圧の検査などを経て、外科的手術や陰圧式勃起補助具など、治療法を選択、決定する。また、バイアグラ発売以降は、多くの患者がその恩恵を授かっている。心因性のED患者にも、まず「結果」を与えてくれる同薬は、行動療法として比較的高確率で良好に作用しているという



アナタのED危険度自己診断チェック

- 1 高学歴である
- 2 結婚は「恋愛」ではなく「見合い」だった
- 3 性に対して、いわゆる「奥手」な少年だった
- 4 SEXで、女性がちゃんと感じているか心配
- 5 自分本位のSEXは相手に失礼と思っている
- 6 毎晩のように深酒をしている
- 7 一日に40本以上タバコを吸う
- 8 人付き合いが苦手と感じることがある
- 9 自分はプライドが高いほうだと思っ
- 10 自分の性癖に、罪悪感を抱いたことがある

右がEDの主要因。項目中、7つ以上に該当した読者は要注意である。しかし、精神的な要素が多分に作用する病いであるEDゆえに該当項目が1つでも、発症の可能性はある

う。そして、精力が減退した後に婚期を迎える晩婚化も一因では。また、女性に對して氣を使いすぎる優しい男性が増えたのも要因の一つと考えられます」
こう説明するのは、東邦大学大森病院泌尿器科の永尾光一医師。30代を中心に年間約300人ものED患者を診察しているという。近年、患者は増加の一途を辿る傾向で、完全予約制の診察は1カ月待ちという「盛況」ぶり。オトコたちの受難の時代は、まだまだ続きそうである。

ガン治療などで生殖機能の停止が測定される患者の精液は、液体窒素の中冷凍保存する

冷凍保存後の精子でも妊娠は可能。牛の例では半世紀前の精子から子牛が生まれたことも

↑患者やボランティアから提供された精液は遠心分離器で精子だけが取り出される

←射精直後は粘性の高い精液も、1時間ほどでサラリとしてくる。透明度の高い左側の試験管の精液は、無精子患者のもの

男が知りたい
カオラトコ
ダコのもの

顕微鏡の向こうで弱ったオトコが喘いでいる

96年4月から妊婦者の精液を調査・分析してきた帝京大学医学部。96年4月までの第1次調査では、89検体中、精液性状の5項目（精液量、精子濃度、前進運動率、正常形態率、生存率）すべてWHOの基準値をクリアしたものはわずか3例。奇形が増加し、運動率、濃度の低下が目立つたという。そして、昨年春に発表された別の分析では、九州より東京が、40代より20代が、精子濃度で低い値を示すという、実に興味深い結果が……

↑ 正常な精液。1mlあたり6千万個の精子が活発に運動。
↓ WHO基準値の2千万個を下回る精液では通常の交渉では妊娠は難しい

掲載：『オトコ使用本』